

東北公済病院・東北公済病院宮城野分院
東日本大震災記録集

今後に向けた対策

◆ 防災対策部会

今回の東日本大震災の経験を教訓として、今後の防災対策とするべく、これまでの部会委員の他、今回主要な役割を担った職員を含み再編成した。また、主要な職員から寄せられた震災行動記録と反省点を基に、課題を整理し検討した。

1. ライフラインの現状把握と対策

停電時は、自家発電装置が作動するのが当たり前と考え、電源確保できない事態は想定していなかった。さらに断水、ガス供給停止、通信手段も断たれることも想定外であり、現行マニュアルにもライフライン寸断を想定していなかった。また、入院・外来診療、検査・手術の制限、電源がないと上・下水道の使用制限、ガスが供給されず暖房が確保されない、医療機器の不足、照明器具の不足等への影響を及ぼした。

当院における自家発電稼働時間や燃料確保の方法などのライフラインの現状と病院機能に及ぼす影響の把握が出来ていなかったため、対応に時間を要した。今後は、日頃の点検・整備は勿論のこと、マニュアルに「ライフライン対応フローチャート」を追加、備蓄品も追加準備をするなど、その対応への備えを行った。

① 自家発電装置

当時、バッテリーが容量不足のため作動しなかったという残念な結果となった。当院の自家発電装置稼働時間は、重油タンクが小さいため最大 7 時間と短い。今回の震災では、電気復旧まで約 24 時間を要した。正常に作動していたとしても 7 時間で燃料切れになったと考えられる。重油の確保が必須となるが、分院の重油タンクから小型ローリーでの搬送で対処したいと考えている。

② 停電対策

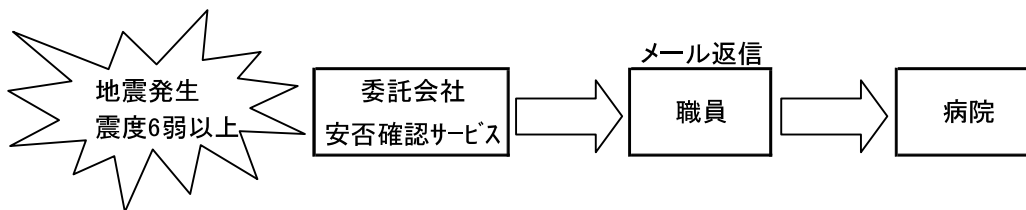
停電当時、懐中電灯が必要になったが数が足りず、乾電池の備蓄も不足した。また、明かりの確保が不十分であったため、LED 懐中電灯を、各部署、病室に 1 台設置することにした。また、情報収集のため、主な部署にラジオを 1 台設置することにした。

③ 衛星携帯電話

震災直後、固定電話や携帯電話が繋がらず、通信網が寸断された。そのため、報告、要請等ができず大変な支障をきたした。速やかに緊急連絡ができるようにするため、今回の震災で、ほとんど通信障害がなかったとされる、衛星携帯電話の導入を本部主導で検討している。

④ 安否確認システム

震災直後、通信網が寸断されたため、職員の安否確認をするのに時間と労力を注いだ。迅速に安否情報を把握するため、地震発生時に業者に委託して自動的に安否確認メールを一斉送信してもらい、受け取った職員が状況返信を行う、安否確認システムを導入することとした。



2. 災害対策マニュアルの見直し

東日本大震災の経験から得られた、課題点・実践知を極力取り入れ、現行マニュアルの不足点を整理し、他施設のマニュアルも参考にしながら、「わかりやすく、すぐ行動にうつせるマニュアル」を基本方針として、一覧表、フローチャート、チェックリスト等を入れ、より実践的なマニュアルを作成した。

① 災害対策の組織機構

今回の震災を振り返ると、指示・伝達・報告のルートが不明確であり、情報一元化が不十分であった。また、役割分担はされていたが、行動に移せない職員もいた。これらの事から、職員と災害対策本部の初動行動、対策本部の任務、各部門・係の役割分担を示し、災害対策時の指揮・統制、役割を明確にした【東北公済病院災害対策本部組織機構図】(資料 1)を作成し継続して見直しをする。また、各自が行動に移せるための「初動行動フローチャート」・「私の災害時行動フローチャート」を作成した。

② 備蓄品

これまで入院患者の備蓄として、3日分を準備していたが、被災患者受け入れが増えることを想定して、飲料水・食品・医療材料等を4日分とした。また、都市ガス復旧に3週間ほど要したため、カセットコンロやプロパンガスコンロを備蓄品とした。停電・断水時には、排水が出来ず、簡易トイレが必要となるため、新たにリストに追加した。

③ 災害訓練

地震を想定した訓練は、トリアージ訓練を含み実施の必要性は認識していた。具体化しようという矢先の震災であった。今回の震災を教訓に、その準備を怠らないために、「災害対策マニュアル」に基づいた訓練を定期的に行う。また、訓練により得られた課題をマニュアル修正・変更を活かして行く事にした。

◆ 宮城野分院復興準備委員会

宮城野分院の復興の実行、宮城野分院職員の雇用の継続についての検討・調整等を行うため、宮城野分院復興準備委員会を発足した。

本院・分院常勤職員（医師除く）に対して、異動・退職・休業の意向調査を行った。その結果、異動者12名・退職者19名・休業者延20名（雇用調整助成金を月単位で利用）となった。【H23.8.31現在】

◆ 東北公済病院あり方検討委員会

東日本大震災により被災した東北公済病院宮城野分院の現状を踏まえ、東北公済病院及び分院の医療サービスの提供体制、診療機能分化・機能強化等のあり方について委員会で検討する。